

教員養成学校教員対象音楽トレーニング

期 間	2008年1月14日～18日、21日～25日 計10日間
時 間	午前8時～11時、午後2時～5時
場 所	プノンペン市教員養成学校 音楽室
講 師	ラム・ダラボン氏 テップ・クンティアレット氏（王立芸術大学）
参加者	幼稚園教員養成学校1名、小学校教員養成学校24名、中学校教員養成学校7名、教育省教員養成局1名 計33名
目 的	各教員養成学校で音楽授業を行うことができるように、音楽教員を育成する。
学 習 内 容	クメール語の6曲、外国語の曲、基礎理論、歌、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダー、指導法等
配 布 教 材	3年間用テキスト・カセット、外国語の歌テキスト、生徒用教科書（クメール語の歌）・カセット各1冊、鍵盤ハーモニカ1台、ソプラノリコーダー1本、アルトリコーダー1本
成 果	以前音楽の知識の無かった教員も、カンボジア伝統音楽しか知らなかった教員も、音楽の基礎知識を身につけ、各学校で音楽授業を行う意欲が生まれた。教員養成学校の教員同士のネットワークが形成され、情報を共有したり助け合ったりする関係ができた。
課 題	トレーニング実施前に各学校の校長に会う機会がなかったため、今後教育省とJHPの考えを校長と共有する機会を持つ必要がある。 各学校で音楽授業が行われているかどうか、調査を行っていく必要がある。

音楽授業実施校の推移

市・県名	2007年3月	2008年3月
プノンペン市	8校	9校
シアヌークビル市	14校	17校
カンダール県	5校	5校
タケオ県	9校	12校
コンボンスプー県	31校	32校
コッコン県	2校	2校
コンボンチャム県	13校	13校
コンボンチュナン県	3校	17校
バットバン県	1校	1校
ブレイベン県	1校	1校
合 計	87校	109校

現職教員対象音楽トレーニング（初級）

期 間	ワークショップ（計10日間）： 2007年9月3日～9月7日、9月10日～17日 フォローアップ（計6日間）： 2007年11月13日～14日 2008年1月9日～10日 2008年3月25日～26日
時 間	午前8時～11時、午後2時～5時
場 所	プノンペン市教員養成学校音楽室
講 師	ハーン・ラッティラボ氏（王立芸術大学）
参加者	コンボンチュナン県コンボントライ郡、トゥックポー郡、タケオ県トラムコック郡他、シアヌークビル市小中学校教員、郡教育局スタッフ（計32名）
目 的	・音楽教育の理解を深める。 ・音楽の基礎理論・基礎技術の習得。 ・学校での音楽指導に向けて、授業スケジュールの立て方・指導法を学ぶ。
学 習 内 容	クメール語の曲、外国語の曲、基礎理論、歌、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダー、指導法等
配布教材・楽器	3年間用テキスト・カセット、外国語の歌テキスト、生徒用教科書（クメール語の歌）・カセット各1冊、鍵盤ハーモニカ1台、ソプラノリコーダー1本
成 果	10日間のワークショップで習った内容から生徒に指導していくように促し、10月の新学期から各学校で音楽授業を行うことができた。 郡教育局が非常に協力的で、各学校への連絡や調査等を行ってくれ、JHPの負担が軽減された。
課 題	外国語の曲の理解度がクメール語の曲に及ばず、理解を助ける教材の作成が必要である。

現職教員対象音楽トレーニング（上級）

期 間	ワークショップ（計10日間）： 2007年8月6日～10日、13日～17日 フォローアップ： 2007年11月5日～6日 2007年11月6日～7日 2007年12月5日～6日
時 間	午前8時～11時、午後2時～5時
場 所	ワークショップ：プノンペン市教員養成学校音楽室 フォローアップ：シアヌークビル市教員養成学校音楽室
講 師	ハーン・ラッティラボ氏（王立芸術大学）
参加者	シアヌークビル市メタピアップ郡・ブレイヌブ郡より18名
目 的	・参加者の音楽知識・技術のフォローアップ。 ・初めての音楽コンテストに向けての指導。 ・音楽授業を行う中で出てくる問題・疑問を解決させ、授業内容を充実させる。
学 習 内 容	クメール語の曲、外国語の曲、基礎理論、歌、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダー、指導法等
成 果	トレーニング全日程を終了し、ほとんどの学校で継続して音楽授業が行われている。
課 題	8月のワークショップの際、病気やリタイア等欠席者が目立ち、今後の音楽教育の継続に不安が残る。 音楽コンテストでの発表が練習不足を感じさせる内容で、コンテストの主旨の理解が不足していた。

マーチングバンドプログラム

期 間	2007年4月より2008年3月まで(毎週木曜日)	
時 間	コラップ 小学校・ワットブノン中学校 奇数月14:00~17:00、偶数月8:00~11:00 サクラクバルチュロイ小学校 奇数月8:00~10:00、偶数月14:00~16:00	
場 所	コラップ 小学校、ワットブノン中学校、 サクラクバルチュロイ小学校(2007年11月より)	
対象者	コラップ 小学校児童 約35名 ワットブノン中学生徒 約70名 サクラクバルチュロイ小学校 約40名 合計 約145名	
内 容	鍵盤ハーモニカ、小・中・大太鼓、シンバル、トランペット、クラリネット、ベルリラ、キーボード等の楽器演奏、マーチング等の練習	
年 間 授業回数	コラップ 小学校 : 50回 ワットブノン中学校 : 85回 サクラクバルチュロイ小学校 : 20回	
専門家 指 導	尾田一夫氏による指導(2回実施) 2007年7月23日~27日, 9月25日~28日	
演 奏 実 績	4月5日	ワットブノン中学校音楽棟贈呈式
	4月7日	ブノンペン市スポーツ大会閉会式
	5月7日	ブノンペン市スポーツ大会
	5月28日	ブノンペン市スポーツ大会
	5月31日	国際子どもデー・イベント(コラップ 小学校・ワットブノン中学校)
	6月1日	「国際子どもデー」イベント(コラップ 小学校・ワットブノン中学校)
	6月12日	児童労働撲滅イベント(コラップ 小学 校・ワットブノン中学校)
	6月15日	デング熱対策イベント(コラップ 小学 校)
	6月22日・ 26日	カンボジア・ベトナム友好イベント(コラ ップ 小学校)
	6月22日	ブノンペン市スポーツ大会開会式
	7月4日	デング熱対策イベント(コラップ 小学 校、ワットブノン中学校)
	7月5日	ブノンペン市スポーツ大会閉会式
	8月15日	2007年8月隊見学・交流会
	9月26日	Cambodia Public Bank セレモニー
	10月1日	始業式
	10月25日 ~11月1日	日本招聘(ワットブノン中学校26名・引 率者5名)
	10月28日	アンサンブルフェスティバル(徳島県阿南 市・コスモホール)
	10月29日	由岐中学校交流会(徳島県海部郡美波町)
	10月31日	JHP15周年祝賀会(東京プリンスホテル)
	12月8日	バレーボール大会
12月14日	サッカー大会	
12月25日	コラップ 音楽棟贈呈式(コラップ 小学 校・ワットブノン中学校)	
12月25日	ミュージックシェアリングコンサート	
1月31日	サッカー大会閉会式	
2月29日	ストウンチュル-中学校贈呈式	
3月18日	JHP 音楽コンテスト決勝	
3月21日	トゥナールトゥートン小学校贈呈式	

音楽コンテスト

概要	音楽トレーニング参加者および卒業生が音楽授業を行っ ている学校を対象に、2005年度より年1回「音楽コンテ スト」を開催している。本年度は5市県で地区予選を行 い、10市県より88校が参加。各地区予選の優勝校計8 小学校と中学校全12校がブノンペン市での決勝に進出 した。				
開催 都市	ブノンペン市、コンボンスプー県、タケオ県、シアヌー クビル市、コンボンチャム県				
参加 校数		小	中	小養*1	中養*2
	ブノンペン市	5	3	0	2
	カンダール県	2	0	1	1
	コンボンスプー県	26	1	0	3
	タケオ県	4	1	1	3
	シアヌークビル市	15	1	0	0
	コンボンチャム県	12	1	0	0
	コンボンチュナン県	1	0	0	2
	コッコン県	1	0	0	0
	ブレイベン県	0	0	0	1
バットバン県	0	0	0	1	
計	66	7	2	13	
*1:小養:小学校教員養成学校 *2:中養:中学校教員養成学校					
参加 校数	地域	開催日	参加人数	優勝校	
	コンボンチャム県	08/1/30	553	チュレイタソー小 学校	
	コンボンスプー県 (1日目)	08/2/13	386	アンロントン小学 校	
	コンボンスプー県 (2日目)	08/2/14	373	パーサット小学校	
	コンボンスプー県 (3日目)	08/2/15	379		
	タケオ県	08/2/22	252	ブラサトスラケオ 小学校	
	ブノンペン市	08/2/29	414	サクラクバルチュ ロイ小学校	
	(カンダール・コンボ ンチュナン・コッコン)			クダタコイ小学校	
	シアヌークビル市 (1日目)	08/3/4	491	チアシム小学校	
	シアヌークビル市 (2日目)	08/3/5	185	サクラ学園	
参加人数合計		3033			
決勝 大会	部門	開催日	参加校	優勝校	
	小学校部門	08/3/18	8校	サクラクバルチュ ロイ小学校	
中学校部門	08/3/19	12校	チュロイチョンバ ー中学校		
課題 演奏	二部合唱(課題曲 小学校「平和のハト」、中学校「ク メールの国」) 楽器演奏(外国の曲テキストより) 自由演奏(曲目・楽器等各学校で演奏形態を決定)				
成果	JHPの方針に合致した課題を設定し、プロジェクトの 効果を高めることができた。 各地域の教育局や教員養成学校と協力して、準備を進 めることができた。				
課題	参加校の交通費や食費を削減し、より地域に根付いた イベントにするためにも、郡レベルでの開催を検討する。 学校や郡・県教育局・教員養成学校との協力関係を強 め、円滑な運営に努める。				

第6回絵画展 開催概要

参加校	教員養成学校 6校・小学校 59校・CCH(孤児院)・日本の学校		
作品募集テーマ	教員養成学校 『社会のルール』 小学校 『私たちのくらし、環境』		
作品提出校と回収数	地域	校数	作品数
	ブノンペン市	10校	382作品
	カンダール県	9校	355作品
	コンボンスプー県	13校	488作品
	タケオ県	9校	337作品
	シアヌークビル市	13校	472作品
	コンボンチャム県	11校	404作品
	幸せの子どもの家(CCH)	1校	18作品
	日本	12校	201作品
	合計	78校	2,657作品
展示場所と期間	シアヌークビル市	07/11/30～12/06	
	ブノンペン市	07/12/12～12/18	
	タケオ県	07/12/28～08/1/4	
	カンダール県	08/1/9～1/15	
	コンボンチャム県	08/1/23～1/29	
	コンボンスプー県	08/2/14～2/20	
	表彰式・受賞者対象 スタディツアー	2008/3/18	
来場者合計	15,814名		
成果	<p>各市県の教育局ができるだけ多くの小中学校の生徒を絵画展視察に招待し、また音楽コンテスト会場で作品を展示したりした結果、できるだけ多くの見学者を得ることができた。</p> <p>ほとんどの TTC で生徒が絵画展の運営の補助を行ってくれた。</p> <p>多くの参加者から好意的な反応を得ることができた。</p>		
今後の課題	<p>各市県の絵画展会場は、本プロジェクト参加校から徒歩圏内の学校しか原則的に招待されていないため、遠隔地の学校にも絵画展視察ができるよう、対策を検討する。</p> <p>賞や審査方法、表彰式の運営方法を改善する必要がある。</p> <p>絵画展見学者は「お絵かきコーナー」で楽しく絵画を体験できるようになっているが、静かに絵を鑑賞する重要性も知らしめていきたい。</p>		

美術授業実施校の推移

市・県名	2007年3月	2008年3月
ブノンペン市	11校	12校
シアヌークビル市	11校	13校
カンダール県	8校	9校
タケオ県	8校	9校
コンボンスプー県	12校	13校
コンボンチャム県	10校	10校
コンボンチュナン県	0校	1校
合計	60校	67校

教員対象美術ワークショップ

期間	2007年8月20日(月)～24日(金)	
場所	ブノンペン市教員養成学校(MTTC)	
講師	パウ・ラスメイ氏(JHP契約講師)	
対象者	2特別都市・7県より33名 ブノンペン市、カンダール県、コンボンスプー県、タケオ県、シアヌークビル市、コンボンチャム県、コンボンチュナン県	
目的	<p>これまでの参加校から希望する教員(過去の参加経験は問わず)を対象とし、各校での絵画授業をより充実したものにできるようにする。</p> <p>絵画授業をはじめとする情操教育の重要性を知らしめる。</p> <p>地域で中心となって教え広める事が出来る、または意欲のある教員に対してサポートを行う。</p> <p>本トレーニング修了教員が、各々のクラスター、あるいは地域で他校の教員に教える事ができるようになり、教員自身が中心となって絵画教育活動を実践していく事が期待される。</p>	
講義内容	1日目	オリエンテーション、絵画教育の意義、絵画授業に関するプレゼンテーションとディスカッション、質疑応答、クラフト作成
	2日目	デッサンの基礎
	3日目	デッサンの基礎、2007年8月隊との交流会
	4日目	彩色の基礎
	5日目	屋外での写生、閉会式
成果	<p>6校33名の絵画教員を育成することができ、今後各学校でより多くの生徒が絵画教育に触れることが可能になった。</p> <p>多くの教員(32人中27人)が各クラスター内での絵画教育普及に関心を示した。</p>	
改善点	<p>5日間で学習できる内容に限界がある。来年度以降、限定したトピックをより深く学習するワークショップにする等、検討する必要がある。</p> <p>本年度ワークショップに参加を希望した教員が30名を超え、選出されなかった教員への連絡ミスがあり、2名定員を超えて受け入れざるを得なかった。また、ワークショップ参加教員の中に、本年度で契約終了した教員も含まれていたことが分かり、参加者の選出方法を改善する必要性を感じた。</p> <p>中学校教員不足のため、小学校教員を3ヶ月間トレーニングして、中学校へ異動させるケースが増えており、音楽・絵画プロジェクト共にその影響を受けている。各校2名以上の教員をトレーニングし、いずれかの教員が中学校へ異動することになって、絵画教育を継続できる体制にする必要がある。</p> <p>クラスター内での普及活動を行う講師を育成するためにも、本トレーニングよりも発展的な内容を含み、各地域で絵画教育普及トレーニングの講師を育成するためのトレーニングを開催する必要がある。</p>	

主な講演活動の実績

月日	講演名、場所等
4/15	JHP 活動報告会 (東京)
5/15	仙台市立台野原中学校
5/17	舞鶴市立若浦中学校
5/17	山形市立十中学校
5/19	熱海国際協力アート展トークショー (静岡)
5/22	県立三島北高校同窓会 (静岡)
5/22	京都市立大原野中学校
5/23	岐阜市立東長良中学校
5/24	岐阜市立厚見中学校
5/25	㈱リコー社会貢献クラブ講演会 (東京)
5/29	平和のための戦争展
6/2	ネパール NGO ネットワーク総会 (東京)
6/6	京都グローバル・リイ・メツ・クラブ 例会 (京都)
6/7	熊取町立熊取中学校
7/3	藤沢市立高倉中学校
7/26	鹿児島県小中学校養護教諭教育研究会講演 (鹿児島)
9/1	富士ゼロックス端数倶楽部クラブ説明会 (東京)
9/3	全国商工団体連合会講演会 (静岡)
9/18	ヤヨイ食品講演 (東京)
9/24	協力隊 3万人突破記念シンポジウム (東京)
9/29	中部大学第一高等学校 (愛知)
10/4	藤沢市立羽鳥中学校 (神奈川)
10/8	二宮市教育委員会生涯学習センター主催文化講演会 (神奈川)
10/11	藤沢市立羽鳥中学校 (神奈川)
10/14	JHP 活動報告会 (東京)
10/20	東京未来大学『未来祭』(東京)
10/26	甲府市立東高等学校講演 (山梨)
10/29	美波町立由岐中学校交流事業 (徳島)
10/30	CCH (幸せの子どもの家) お話会 (東京)
11/1	スマイルエフエム出演 (埼玉)

月日	講演名、場所等
11/3	稲城市立長峰小学校 (東京)
11/5	熱海国際交流協会 NPO 訪問
11/8	群馬社会福祉大学講演会 (群馬)
11/12	コープとうきょう講演会 (東京)
11/12	東京都立広尾高校
11/14	佐野市立葛生中学校
11/17	茨城キリスト教大学創立 40 周年講演会 (茨城)
11/21	武蔵野工業大学付属中学・高校 (東京)
12/2	京都アーティストサミット (京都)
12/3	大東文化大学外国語学部講義 (埼玉)
12/13	神奈川県立鶴嶺高校 (神奈川)
12/17	美濃加茂市立太田小学校 (岐阜)
12/22	JHP 活動報告会 (北海道)
1/3	ラジオ深夜便出演 (東京)
1/10	田園調布学園大学 (東京)
1/15	風越建設講演 (神奈川)
1/21	船橋翼ライオンズクラブ例会 (千葉)
1/24	スマイルエフエム出演 (埼玉)
2/2	神奈川九条の会講演 (神奈川)
2/2	ワンワールドフェスティバル 2008 (大阪)
2/7	銚田市立銚田南中学校 (茨城)
2/8	NTT 東日本労働組合カボ・シニア-事前勉強会 (東京)
2/15	港区立六本木中学校 (東京)
2/24	国土館大学シホ・シム『アジアの教育現場と国際協力』(東京)
3/1	京都グローバル・リイ・メツ・クラブ 15周年記念式典 (京都)
3/3	イオンファンタジー政策発表会 (千葉)
3/7	茅ヶ崎市立東海岸小学校 (神奈川)
3/11	国際建設技術協会 NGO 報告会 (東京)

は JHP 事務局を訪問した学校を示します。

主な広報・物販・募金活動の実績

月日	内容 (場所)
4/15	JHP 活動報告会 (東京)
4/28	第 78 回メーデー中央大会 (東京)
5/13	つくばフェスティバル 2007 (茨城)
5/17~21	国際協力アート展 (静岡)
5/20	杉並ピースフェスティバル 2007 (東京)
5/22	経済同友会イベント (東京)
5/22	県立三島北高校同窓会 (静岡)
5/25	㈱リコー社会貢献クラブ講演会 (東京)
5/29	平和のための戦争展 (神奈川)
5~6月	NPO ハウス校庭フリーマーケット (東京)
7/1	北海道 NGO フェスタ (北海道)
7/2~13	港区ボランティアセンター活動パネル展 (東京)
7/7	北海道国際協力フェスタ 2007 (北海道)
7/21	JCBL10 周年記念イベント (東京)
8/15	大田区政 60 周年記念『第 7 回平和祈念コンサート』(東京)
8/17~19	港区助成事業活動紹介パネル展 (東京)
8/17~19	ライジングサンロックフェスタ (北海道)
9/8	天満敦子チャリティーコンサート (東京)
9/8	ふれ愛まつりだ、芝地区 (東京)
9/22,23	千葉日本大学第一中学・高等学校『習陵祭』(千葉)
9/29	中部大学第一高校学園祭「一高祭」
10/6,7	グローバルフェスタ JAPAN2007 (東京)
10/6,7	横浜市立東高等学校 (神奈川)
10/7	RKK 一乗祭 (東京)

月日	内容 (場所)
10/8	二宮市教育委員会主催文化講演会 (神奈川)
10/20,21	NPO まつり (東京)
10/20	東京未来大学学園祭「未来祭」(東京)
10/27,28	横浜国際協力フェスタ 2007 (神奈川)
10/31	JHP15 周年記念祝賀会 (東京)
11/3,4	鶴見女子中学園祭「光華祭」(神奈川)
11/9,10,11	旭川教育大学学園祭「六稜祭」(北海道)
11/12	コープとうきょう講演会 (東京)
11/17	茨城キリスト教大学創立 40 周年講演会 (茨城)
11/23	スペシャルオリンピックス東京チャリティラン (東京)
11/28	国際婦人協会バザー (東京)
12/1,2	京都アーティストサミット (京都)
12/3	オタワ条約 10 周年記念イベント (東京)
12/5~9	俳優座劇場『天国に行って 3 つめのドア』(東京)
12/22	JHP 活動報告会 (北海道)
12/23	和泉妃夏 一人芝居 (東京)
1/27	新宿シティアーフマラソンバザー (東京)
2/2	神奈川九条の会 (神奈川)
2/2,3	ワンワールドフェスティバル (大阪)
2/16	第 17 回旭川生涯学習フェア地球市民村 (北海道)
2/27	JTB 西日本『にっぽん演歌の夢祭り』(大阪)
3/16	北海道教育大学旭川校付属中学校音楽部定期演奏会 (北海道)

この他にも、全国各地のイベントに出展し JHP の活動を紹介しました。

加入団体との提携

当会が加入している各団体における活動実績は以下の通り。

団 体 名	J E N
<p>2007年5月1日よりJHP理事の吉岡がJENの共同代表に就任した。2007年度の復興支援活動地域は新たにスーダンが加わり、アフガニスタン、イラク、パキスタン（地震）スリランカ（津波被災者および停戦による帰還民の定住支援）の5カ国および中越沖地震被災地における復興支援の合計6ヶ所であった。2008年には引き続き支援活動を実施している上記の6ヶ所のほか、シリアでイラク難民支援を新たに始める予定。</p>	
団 体 名	地雷廃絶日本キャンペーン（J C B L）
<ul style="list-style-type: none"> ・代表の小山内が世話人、七條が運営委員を継続。 ・国内でのイベント主催及び出展、啓発活動に協力。7月にはウガンダからICBL大使のマーガレット・オレク氏を招いて、JCBL10周年イベントを開催。12月にはオタワ条約10周年を記念してイベントを開催した。 ・『ちょうちょキャンペーン』（オタワ条約未加入国へのメッセージの収集、大使館等への進呈）に協力。 ・当会の自主的活動として、地雷Tシャツを年間267枚販売し53,400円をJCBLに寄付した。（下表参照） ・ノルウェー政府やクラスター兵器連合などを中心に、世界的にクラスター爆弾禁止条約制定の動きが大きくなってきたことを受けて、『オスロ・プロセス』の国際会議に積極的に出席。また、国会議員、外務省、防衛省とも報告会や勉強会、話し合いの機会を数多く設け、日本政府が求められている牽引役としての役割の重要性をアピールした。さらに、クラスター爆弾禁止に向けて、日本政府に対して署名活動も行い、内閣府に提出した。 	
団 体 名	アフリカへ毛布をおくる運動
<p>2007年度の収集枚数は114,430枚、配布枚数は122,500枚。配布先はエチオピア、ジブチ、ウガンダ、マラウイ、モザンビーク、コンゴ、ソマリア、スーダンの8カ国。なおアフリカへ毛布をおくる運動は活動開始以来25周年になる2009年を機会に終了する方針が決定された。当会の関わりについては、13ページのボランティア派遣事業の報告を参照。2008年度の毛布募集チラシは欄外Aの通り。</p>	
団 体 名	NPO事業サポートセンター
<ul style="list-style-type: none"> ・代表小山内が代表理事の一人。 ・NPO事業サポートセンターが主催する「NPOまつり2007」に出展した。事務局中込が実行委員として関わった。 	
団 体 名	国際協力NGOセンター（JANIC）
<ul style="list-style-type: none"> ・各種通知やメール等で国際協力に関する重要な情報を受け、活動を充実させることができた。 ・当会のボランティア募集、イベント情報、求人情報などの情報を掲載することができた。 ・ホームページ上で寄付を呼びかける寄付サイト（NGOサポート募金）に継続参加した。 	
団 体 名	港区国際交流協会
<p>会報等で港区に関する情報を得ることができた。また、交流協会の会報に『国際ボランティア・カレッジ』のチラシを同封してもらったことがきっかけとなり、港区内の受講生を得られた。</p>	
団 体 名	教育協力NGOネットワーク（JNNE）
<p>教育分野における国連ミレニアム開発目標「2015年までに、全ての子どもが男女の区別なく初等教育の全過程を修了できるようにする」などの進捗状況を、ユネスコは毎年モニタリング・レポートとして発表している。JNNEは国際協力機構（JICA）と共同で昨年に引き続き「万人のための教育（EFA）グローバル・モニタリング・レポート2008年要約版」を翻訳発行、JHPのスタッフも分担翻訳に加わった（欄外B参照）。小学校に行けない世界の子どもは今なお7,200万人もあり、このままでは2015年までに58カ国で初等教育の完全普及が不可能とされている。2008年、日本はG8の議長国とEFA-FTIの共同議長国を務める上、TICADも国内で開催される。国際問題への関心が高まるこの機会に、JNNEはEFA達成に向け、教育協力の重要性を広く市民社会に訴え、更なる理解と参加を働きかける。</p>	
団 体 名	北海道NGOネットワーク
<p>札幌を中心とした地域の情報収集、他団体との情報交換を行うことができた。</p>	
団 体 名	カンボジア市民フォーラム
<ul style="list-style-type: none"> ・2007年4月1日に実施されたカンボジア地方選挙の監視員として市民フォーラムから10人が参加した6人は日本から出発、4人は現地駐在員。当会より吉岡理事が3月27日より4月2日まで監視活動に参加。4月21日早稲田奉仕園で報告会開催。 ・2008年1月10日アジア基金と共催で「カンボジアの民主化と2008年国民議会選挙」というテーマのセミナーを開催した。 ・2008年7月27日に実施されるカンボジア国政選挙の監視活動にカンボジア選挙監視NGOであるコムフレルと協力して参加するための準備を進めている。 	

＜地雷Tシャツ販売数と寄付金＞

年 度	枚 数	寄 付 額
1998（平成10）	3 2 7	6 5 , 4 0 0 円
1999（平成11）	3 6 9	7 3 , 8 0 0 円
2000（平成12）	5 4 8	1 0 9 , 6 0 0 円
2001（平成13）	3 1 4	6 2 , 8 0 0 円
2002（平成14）	6 9 5	1 3 9 , 0 0 0 円
2003（平成15）	3 4 2	6 8 , 4 0 0 円
2004（平成16）	5 4 0	1 0 8 , 0 0 0 円
2005（平成17）	2 0 0	4 0 , 0 0 0 円
2006（平成18）	2 9 1	5 8 , 2 0 0 円
2007（平成19）	2 6 7	5 3 , 4 0 0 円
合 計	3 , 8 9 3	7 7 8 , 6 0 0 円



24

A : 毛布をおくる運動チラシ B : JNNE 翻訳発行レポート表紙